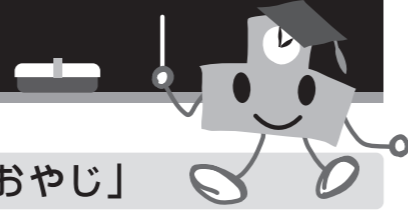


中学校の事例 西区 琴似中学校

「おやじの会」による日曜授業で環境を学ぶ。

「おやじの会」では「おやじ」が講師となり環境に関わる授業を開いている。専門分野での話が聞けることから、児童も熱心に耳を傾けることに。



内容 それぞれのテーマで先生となってくれる「おやじ」

本校の「おやじの会」の「おやじ」が講師となって行われる日曜参観を、8年前から実施している。平成22年度は、11月14日に開催された。その中で、環境に関わる授業もいくつか開かれた。

「おやじの会」は、父親を中心としたPTA外活動のための地域組織として作られた。PTAは母親を中心とした活動で、活動時間帯や形態も母親に特化してしまいがちである。そこで、父親も学校へ関わりやすい形態として「おやじの会」が存在するようになった。

通常のPTA活動と異なり、活動時間帯は休日中心となっている。現在、全国で約4000団体の「おやじの会」が存在している。

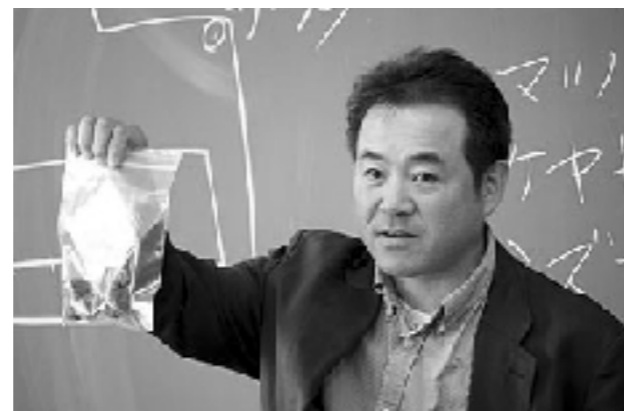
本校の「おやじの会」でも、野菜の栽培、川の清掃、本校の野球部やバレー部との交流試合など、生徒や教員との交流を交えて様々な活動が行われている。



授業のようす①

日曜参観で講師となった「おやじ」は、計19名。1時間目に1年生(全8学級)、2時間目に2年生(全6学級)、3時間目に3年生(全7学級)、計21学級で授業を開催した。「新聞」「営業という仕事」「心と体の関係」をはじめ、「ごみと環境問題」「リサイクル事業」「農業」「本校の樹木」「地形・地中の調査」「水」など、「おやじ」それぞれがテーマに沿って授業を進めていった。テレビ画面に図や写真を写し出したり、持参した現物を使ったりするなど様々な工夫が施され、中学生でも理解できるように説明していた。

やはり、直接関わりのある方の話には迫力がある。着目点も普段の授業とは違っていた。生徒だけではなく、参観に来ていた保護者も「なるほど」と興味深く聞いていた。



授業のようす②

今後 「おやじ」に学ぶ 楽しさと親近感

専門家から話を聞く機会は、そう頻繁にあるものではない。しかも、その専門家が自分や友人の父親というのはなおさらである。父親という身近な人からの話は、親しみがある一方、刺激もある。生徒にとって貴重な時間であり、環境問題や自然に目を向けるきっかけになった。



授業のようす③



授業のようす④

平成22年 おやじの会 日曜参観の時間に「おやじの会」のメンバーが授業を担当。多岐に渡るテーマで講師を務めた。

〈平成22年11月テーマ〉

1年1組 新聞の謎	2年1組 水の話	3年1組 税の話
1年2組 札幌ドームの屋根について	2年2組 心と身体の関係①	3年2組 都市計画とコミュニティ
1年3組 琴中の樹木を見てみよう	2年3組 民事裁判について	3年3組 営業という仕事について②
1年4組 学校に何をしに来ていますか	2年4組 営業という仕事について①	3年4組 伝える力
1年5組 地形・地中の調査について	2年5組 髪の毛の話	3年5組 地震の話
1年6組 コドモックルの話	2年6組 リサイクル業者になってみよう	3年6組 子ども病院の話
1年7組 ゴミと環境問題		3年7組 心と身体の関係②
1年8組 農業の話		

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

環境やエコに対する取組は、電気や灯油の節約など、家族ぐるみでできるものが望ましいと思います。自分たちの生活と関連し、日常生活に定着できるものなど、誰にでもできることを無理なく続けていくことが大切です。

また、推進する教師が固定化されていることや、総合的な学習の時間や選択教科の削減にともない、個々の生徒の興味・関心を生かすづらくなっているなどの問題について、考えていかなくてはならないと感じています。